



関西大学
体育会野球部

奪冠×Dash!

第36号
2019. 12



TOPICS

- ・4 季ぶり 37 回目のリーグ戦優勝！
- ・関西地区代表決定戦
- ・第 50 回記念明治神宮野球大会準優勝！
- ・新チーム始動！
- ・後期チャレンジリーグ
- ・編集後記



KANSAI UNIV. BASEBALL TEAM

4 季ぶり 37 回目のリーグ戦優勝！

春季はチーム打率.217 で 5 位に沈んだ打線が、秋季はチーム打率.253 で 6 大学のトップとなりました。また、投手陣は昨季と変わらぬ安定感を誇りました。初戦となった第 2 節では、春の王者・立命館大学から勝ち点を奪うと、勢いそのままに京都大学、同志社大学を倒します。対関西学院大学では、延長戦を 2 試合戦うなど大熱戦の末に勝ち点を獲得、1 勝 1 敗で迎えたリーグ最終戦対近畿大学では、関大野球部の真骨頂である投手戦で制し、勝ち点 5 の完全優勝を成し遂げました！

秋季リーグ戦は、スケジュールが厳しい中での熱戦・激戦が続きました。その中で、優勝を手繰り寄せたターニングポイントとなる試合が多々ありました。そこで、各節のヒーローの写真と共に関大野球部完全優勝への軌跡を振り返ります！



第 2 節 対立命館大学

1.3 戦目で先発登板し 2 勝
高野(商 3・出雲商)
O3-1、●0-1、O5-0



第 3 節 対京都大学

2 戦目に代打で出場し逆転適時打
西川(人間 3・聖光学院)
O8-2、O6-5



第 5 節 対同志社大学

この節サヨナラ打を含む 5 打点
上神(法 1・佐久長聖)
O4-1、●4-6、O2x⑩1



第 7 節 対近畿大学

2 戦目に優勝へ望みを繋ぐ逆転適時打
坂之下(人間 2・大阪桐蔭)
●1-2、O9-3、O2-1



第 8 節 対関西学院大学

3 戦目に投手陣の救世主として好投
左から、池本(社 2・大阪池田)
定本(文 1・三重)
O6-3、△3⑬3、O4⑬1



☆表彰選手☆

最優秀選手賞：高野

最優秀投手賞：高野

《ベストナイン賞》

投手：高野

捕 手：久保田拓(社 2・津田学園)

一塁手：上神

遊撃手：野口(人間 2・鳴門渦潮)

高野が三冠王となりました！



高野：8 試合に登板し防御率 1.01 をマーク！



上神：勝負強さが光り 10 打点をあげた！



久保田拓：女房役として投手陣を支えた！



野口：打率.352 の頼れる 4 番！

関西地区代表決定戦

リーグ戦に優勝しても、まだ明治神宮野球大会への出場が決定するわけではありません。関西 5 連盟の優勝校が、2 枠しかない出場権をかけて戦いました。関西学生野球連盟は、今年 6 月に行われた 5 リーグオールスターで優勝し、スーパーシード権を獲得していたため決勝戦からの登場となりました。

森翔(商 4・鳥取商)が 4 年生の意地を見せ好投すると、関本(政策 4・日高)が 3 安打を放つ活躍。好機にはリーグ戦後半の活躍が目立った坂之下、1 年生ながら中軸を担う上神の若い 2 人が適時打を放ちました。投打がかみ合い天理大学に 3-1 で勝利し、第 1 代表として 2 年ぶり 7 回目の明治神宮野球大会への出場権を手に入れました！

☆表彰選手☆



左から、敢闘賞の坂之下と

最優秀選手賞の森翔

第 50 回記念明治神宮野球大会準優勝！

11 月 15 日～20 日に明治神宮野球場にて行われた第 50 回記念明治神宮野球大会に出場しました。関大野球部は大会 4 日目から登場。対金沢学院大学では攻守ともに勝負強さを見せ 47 年ぶりの勝利を飾り、対東海大学では延長 10 回タイブレークの接戦を制し、決勝戦進出を決めました。興奮冷めやらぬまま迎えた対慶應義塾大学は、森翔が好投を見せるも相手投手を攻略することができず敗戦。『全国制覇』まであと一歩及ばず、準優勝で幕を閉じました。

3 日連続の試合でリーグ戦同様スケジュールが厳しい中、その疲れを一切感じさせることなく快進撃を見せました。また、大阪から夜行バスで駆けつけたメンバー外の選手たちは、声を枯らし、時には涙を流しスタンドから日本一の声援を送り続けました。今年の「一丸突破」というスローガンを体現した大会となり、4 年生にとって最後の大会を最高の形で締めくくりました。



11 月 18 日 2 回戦

対金沢学院大学 〇5-0

大会第 4 日目、関西大学の初戦の相手は北陸・東海 3 連盟代表、金沢学院大学。47 年ぶりの勝利へ、ベンチ、スタンド共に熱が入りました！

先制点が欲しい関大は 2 回、四死球などで二死一、二塁の好機を作ると、8 番・坂之下が右前適時打を放ち先制に成功。さらに 6 回には久保田拓、倉川(文 4・桜宮)の連続安打などで 3 点を追加し、一気に相手を突き放します！投げては先発の森翔が 8 回 13 奪三振の好投で相手打線をねじ伏せると、9 回にはケガから復帰した肥後(人間 4・広陵)がマウンドへ。大歓声の中、この回を無失点に抑え、試合終了。5-0 で快勝を飾りました！

11 月 19 日 準決勝

対東海大学 〇8⑩7

準決勝の相手は関東 5 連盟第 2 代表、東海大学。

前日の勝利で勢いに乗る関大は初回、4 番・野口の右翼線適時二塁打などで 3 点を奪います。この日も先制点を奪い幸先の良いスタートを切りますが相手打線も奮闘し、3-4 と関大ビハインドで後半戦へ。6 回からは肥後が登板し、5 者連続三振の好投で流れを引き寄せます。逆転したい関大は 7 回、関本の中前安打などで一死満塁の好機を作ると、6 番・久保田拓が走者一掃の右中間適時二塁打を放ち、逆転



に成功します！しかし、最終回に追いつかれ、試合は延長戦に突入。神宮では延長戦からタイブレークが採用されます。関大は 10 回、一死一、二塁から坂之下が左翼線適時二塁打を放つなどして 2 点を追加し相手に重圧をかけます。その裏 1 点を許しますが、5 投手の華麗なリレーでシーソーゲームを制しました！

11 月 20 日 決勝

対慶應義塾大学 ●0-8

決勝戦は関東と関西のプライドをかけた一戦となりました。

関大の先発、森翔は初回到点点を許すも、その後は相手打線を完璧に抑えます。なかなか安打が出ず、苦しんでいた打線は 8 回、この回先頭打者の野口、続く代打・原(法 4・大東)の連続安打で一気に好機を広げるものの後続が倒れます。今年、関大野球部を牽引してきた肥後、森翔、高野が奮闘するも投打がかみ合わず、優勝まであと一歩及びませんでした。悔しい敗戦となりましたが、球場中には選手をねぎらう大歓声が響き渡りました。



47 年ぶりの優勝とはなりませんでした。が、「一丸突破」で成し遂げた快進撃は選手たちの自信に繋がったと思います。

緑の下の力持ち No. 1 !

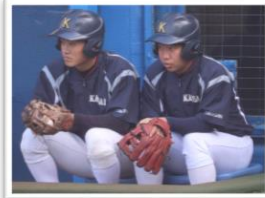
リーグ戦中は、増井を中心に4年生が毎試合球場で偵察を行いました。また、何度もマネージャー室へ来て試合のビデオを見て、相手投手の配球や相手打者の弱点などを研究しました。神宮期間は、練習中に打撃投手として活きの良いボールを投げ込み、3試合で13得点をあげた打線を支えました。



増井 (経 4・向陽)

輝いた☆裏方たち 試合を支えるボールボーイ!

グラウンドにいるのはメンバーの選手だけではありません。中川・能島がボールボーイとして、3試合ともグラウンドに立ち、試合を支えました。この2人がいたからこそ試合を円滑に進めることができました。



左から、能島 (安全 1・盈進)
中川 (総情 1・三田松聖)

4年生のWエースが繋いだ絆のリレー!

肥後が1年春にリーグ戦で初登板すると、3年春から先発に転向し先発ローテーションに定着。通算防御率2.37と関大野球部投手陣の顔となりました。しかし、怪我の影響で秋季リーグ戦はベンチに入ることなく、偵察やスタンド応援に徹していました。一方で、森翔は主に中継ぎ投手として通算防御率2.35を記録し活躍しました。今季は、リーグ戦優勝を懸けた近畿大学戦や代表決定戦など大一番で好投を見せました。その活躍の背景には「肥後と一緒に神宮に立ちたい」という思いがありました。神宮の舞台で迎えた初戦、森翔が8回を無失点に抑え、9回にピンチを迎えたところで肥後に継投。見事な完封リレーを見せました。この2人は神宮での3試合すべてに登板しチームの勝利に貢献しました。



肥後

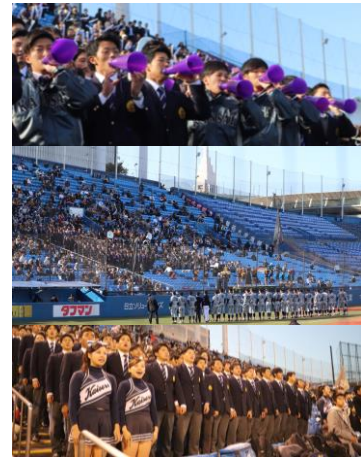


森翔



この快進撃を支えたのは、やはりスタンドからの応援です。スタンドから試合を見守る選手たちは一投一打に声援を送り続けました。関大応援団も東京まで足を運んでくださり、連日関大スタンドを盛り上げてくれました!

また、神宮には3日間でなんと1,700人を超える保護者の皆様・OB・OG・大学関係者の方が応援に駆けつけてくださいました。関大のスタンドは日本一だ!という声を何度もかけていただき、「応援でも日本一」という目標は達成できたのではないのでしょうか。チーム一体となり勝ち進んだ今年の関大野球部は、長き歴史に新たな1ページを刻むことができました。



4年間マネージャーをして良かったと心から思います。マネージャーとして入部し辞めたいと思うこともありました。しかし、ここまで辞めずにやってこられたのは、指導者や目標となる先輩、何よりいつでも笑い合える同期に出会えたからです。最高の同期と47年ぶりの神宮での勝利、そして準優勝の喜びを分かち合えたことで、4年間頑張った本当に良かったと思うことが出来ました。これからは野球部での経験を活かし、1人のOBとして関大野球部の看板を背負って頑張りたいと思います。



主務: 大島

(文 4・関大一)



主将: 松島恒

(人間 4・履正社)

4年間を振り返っていろんなことを学びとても良い経験ができました。野球で何とか結果を残すことを目標に努力しました。しかし、上手いく時もありましたが、上手いかない時の方が多くありました。その失敗からたくさんことを学び、これからの人生に必要なことを見つけられたと思います。準優勝という形で終わり悔しさは残りましたが、この悔しさを晴らせるように前に進んでいこうと思います。関西大学で野球ができたこと、チームの仲間や応援してくださる方に出会えたことに心の底から感謝しています。

保護者の皆様へ

今年は、特に多くの保護者の皆様に球場へ足をお運びいただき、ありがとうございました。秋季は47年ぶりに神宮で勝利し、優勝まであと一步のところまで勝ち進むことができました。現4年生は一人ひとりの意識が高く、結束力が高い学年です。下級生からの信頼も厚かったからこそ、準優勝を成し遂げることができたと思います。この1年間で先輩方が作り上げた「応援されるチーム」、そして、グラウンドにいる選手と、スタンドが一体となり戦える野球部を私たち下級生が受け継ぎ、来季も多くの方に応援していただけるチームを目指します。今後とも関大野球部をよろしくお願いいたします。

新チーム始動！

11月20日をもって4年生が引退し、その2日後から新チームの練習が始まりました。誰も神宮準優勝という結果に満足しているわけではありません。神宮の舞台に立ったことで「神宮でプレーしたい」、「神宮で優勝したい」と思う選手が増えました。自主練習を積極的に行うなど野球に向かう姿勢にも変化が起きました。47年ぶりに勝利したことで、夢であった『全国制覇』が現実味を帯びようになり、スタッフ・選手一同は来春に向けて気合十分です！

他の大学より1か月ほど遅いスタートとなりましたが、11月30日に新チームミーティングを行いました。『全国制覇』を達成するためにもリーグ戦連覇が欠かせません！春季リーグ戦優勝に向け、秋季リーグ戦の各校のデータを比較し、来季への課題を見つめ直しました。また、早瀬監督からは「一人ひとりがチームを良くするという意識を持ち、個人の長所を活かして勝利し、またみんなで優勝を分かち合おう」や、「神宮でたくさんの方からの応援を受け、さらに関大野球部ファンを増やそう」などというお言葉がありました。これらの言葉から、今回の神宮をただの経験で終らせてはならないと強く感じました。



左から、尾端、林大、吉川、阪倉、中村晃、藤原、藤木優、森下

一新幹部—

主 務：尾端 翔(法3・三田学園)
主 将：吉川 周佑(経3・土佐)
副 将：阪倉 涼太郎(社3・佐久長聖)
林 大智(人間3・米子北)
学生コーチ：中村 晃(総情3・智辯学園)
藤原 希純(法3・舞子)
藤木 優成(政策2・福知山成美)
森下 翔太(政策2・大社)



主 務：尾 端

神宮に出場し、47年ぶりに決勝に進出いたしました。スタンドからの応援や裏方などで4年生がチームをまとめ、たくさんの方から応援していただけるチームとなりました。来季はこの結果を超え、悲願の『全国制覇』を達成できるよう、より多くの方にご声援をいただけるよう頑張りますので、引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。

この秋、神宮で準優勝という結果を出せたのは4年生を中心に1つの目標に対して役割を果たしたからだと思います。しかし、全国のチーム相手にはまだまだ力が足りないことを痛感しました。一人ひとりがもっとレベルアップし、全国の舞台でも負けないパワーをつけたいと思います。そして、4年生が築き上げてくださったものを受け継ぎ、常勝軍団を作っていきます！



主 将：吉 川



副 将：阪 倉

神宮大会では東京にまで多くの方が駆けつけてくださり、大きな声援を送っていただきありがとうございました。現在153名という大人数の中、新チームが始動することになりました。1番人数の多い3年生を中心に、チームが一丸となるよう副将としてチームを引っ張っていきます。来年は今年の全国2位という結果を上回る、『全国制覇』を目標にチーム全員で頑張っていきますので応援よろしくお願いします。

新チームは、前のチーム以上に野球部と野球部以外の方々が一丸となることを目指します。そのためにも、上級生が主体となりチームを引っ張っていただけるように日々練習に取り組みます。また、『全国制覇』まであと一歩のところまでできています。今年足りなかった部分をチーム全体で改善し、もう一度神宮に出場するチャンスを掴みたいと思います！一年間応援のほどよろしくお願いいたします。



副 将：林 大

関大野球部の詳しい情報は、SNSで公開しています★ 野球のシーズンは終わりましたが、野球部のオフシーズン活動状況を豊富に更新いたします！また、ファン作りの一環として始めた関大野球部公式 Instagram は神宮を終えて1,200人のフォロワーを達成することができました。多方面の方からご支援をいただいていると実感しております。しかし、まだまだ多くの方に関大野球部を知っていただきたいです！新たな企画も考えているのでぜひ楽しみに！



後期チャレンジリーグ

前期は5位に沈み試合後のミーティングで、「1.2年生はリーグ戦に出場している選手が多いが、層が薄い。大学野球は努力次第で何とでもなるから、これからも期待している」とコーチからの激励を受けたチャレンジリーグメンバー。後期はその悔しさをバネに4勝1敗で2位と大躍進を果たしました。チャレンジリーグでもリーグ戦同様、毎試合ヒーローが変わり数々の劇的な試合がありました。この背景には一人ひとりが後ろに繋ぐ意識を持ち、一丸となり戦い抜いたからではないでしょうか。そんな後期チャレンジリーグを各試合のヒーローと共に振り返ります！

《藤崎が優秀選手賞を獲得》

全試合でスタメン出場し毎試合安打を放ち、8打点をあげました。また、再三の好守でもチームを救いました！

今期は、目片・川崎がプレーで引っ張り、控えの2年生のベンチワークのおかげで優秀選手賞や2位という結果に繋がったと思います。来年からはリーグ戦で活躍できるように頑張ります！

《リーグ戦投手陣に新しい風をもたらした鷲尾昂》

チャレンジリーグの活躍が光り、リーグ戦メンバーへ。

リーグ戦メンバーに選ばれとても驚きました。不安な気持ちもありましたが、なるべくポジティブに考えるようにしました。一つの目標、夢であった兄である鷲尾侑(人間4・平城)とのベンチ入りを果たせて非常に嬉しく思いました。

《今季限りで学生コーチとなる藤木優》

私が学生コーチになって、今まで当たり前のようにできていたことは学生コーチやマネージャーの存在があってこそだと実感しました。そして、何をするにしても裏で支える人に感謝しなければならぬと思いました。

引退する時に選手から感謝してもらえる学生コーチになって必ず神宮に出場します！

対 立命館大学 O7⑧0

藤崎(環境2・崇徳)が、4打点をあげるなど打線が奮起し初戦をコールドで勝利しました！



対 関西学院大学 O9-6

コールド負けの危機から小河(商1・大社)の3点本塁打などで逆転勝利しました！



対 同志社大学 O1-0

鷲尾昂(経1・登美ヶ丘)が、先発として好投し、緊迫した試合を制しました！



対 近畿大学 ●5-6x

惜しくも逆転負けとなりましたが、4番の目片(人間2・比叡山)が、2安打と存在感を示しました！



対 京都大学 O8⑧1

最終戦でチャレンジリーグ主将・川崎(法2・関大北陽)が、3安打2打点の大活躍！



昨秋のチャレンジリーグにおいて、最優秀選手賞に輝いた吉川はこの秋季リーグ戦でレギュラーに定着し、後半からはクリーンアップを担うなど主軸となり神宮大会で関大を準優勝へ導きました。吉川の雄姿を目の当たりし、「チャレンジリーグで活躍するとリーグ戦でも活躍することができる」と、考えるチャレンジリーグメンバーが多く、とても良い刺激となりました。来年に懸ける思いが一層高まったと思います。今年チャレンジリーグで活躍した選手たちの来季リーグ戦での活躍に注目です！



編集後記

今回の奪首×Dash 第36号はいかがでしたか？「一丸突破」のスローガンを掲げチームが一つとなり駆け抜けた1年はとても早く過ぎ去った気がします。4年生が残してくださった神宮準優勝という実績やグラウンド・スタンドが一体となった団結力に負けぬよう邁進していきます。野球シーズンが終わり、基礎を中心とした練習となります。この冬、野球面だけでなくチーム力の向上を目指し、さらに成長してまいります。春のキャンプ・オープン戦を経て、4か月後に始まる春季リーグ戦に向け、チーム内の戦いはもう始まっています。今後も関大野球部に温かいご声援をよろしくお願いいたします！



左から、川上(経2・三田学園)、松本(環境2・神戸学院大附) 須田(社2・東海大仰星)、松田(政策2・聖カタリナ学園)